

地域計画特論(3) 大乘仏教の思想(空の論理)

- 大乘仏教の成立
- 菩薩とは
- 般若心経と空の思想
- 色即是空・空即是色
- 中観思想
- 唯識思想



■これまでのおさらい(1)

キリスト教

- ・絶対神
- ・キリスト(神の子)
- ・聖書(神との契約)
- ・神との約束を守る
- ・神>>人(原罪)
- ・神は絶対であり「人は神にはなれない」
- ・西洋科学の思想的背景

仏教

- ・神はいない
- ・ブッダ(仏になったひと)
- ・仏典(ほとけの教え)
- ・悟りを得て仏になる
- ・人(仏性)⇒仏
- ・仏はたくさんいて「すべての人は仏になれる」
- ・東洋科学の思想的背景



現在の科学技術論にかけているものがあるのではないかな？

■これまでのおさらい(2)

The Buddhism system

ニルヴァーナ(寂滅)

Ordinary people

Buddha

Buddha

“ブッダ”というのは「目覚めたもの」
「最高の真理を悟ったもの」

ゴータマ・シタールダは仏教の創始者であり、覚者となった後、ブッダとよばれた。

絶対神は存在しない

だれでも「ブッダ」になることができる

「ブッダ」の教えが経典に書かれている

- ・中道の教え
- ・四諦(苦の消滅)
- ・十二因縁(煩悩の原因)
- ・八正道(正しい行為)
- ⇒ブッダの教え(原始仏教)

■部派仏教

ブッダ没後100年…原始仏教教団は分裂した(部派仏教)

- 上座部…戒律の絶対を主張する長老中心
- 大衆部…実情に併せて改革してもいいとする進歩派

⇒その後さらに分裂(それぞれの部から派生的に)
紀元前後ごろ…小乗20部とよばれる(多数の部派)

⇒ひたすら修行に専念し、自己が悟りを得て最高の聖者(阿羅漢)になることを求めた。

⇒アビダルマ…「法」(dharma)の研究
教え、真理、構成要素、範疇、もの、存在…の研究
精緻さを誇り、宗教の本質から離れる
宗教というより学問になっていった

■小乗仏教と大乘仏教

大乘仏教…在家信者を包み込もうとする「革新運動」

従来の仏教が修行者個人の救い(解脱)のみを求めていたのに対して、(救いを求める大衆の願いも受けて)自分ばかりでなく多くの人を救うものが真の仏教だとして、その教えを **大乘(大きな乗り物)**に譬えたもの。その情熱から釈迦に由来しない多くの経典を創作したため、自己の解脱のみを目指す上座部からは大乘非仏説という批判の声も上がった。

小乗(小さな乗り物)…自分ひとりの悟いをもとめる

大乘(大きな乗り物)…フツタの精神にもとる、**利他行**
一切衆生の救済をめざす

⇒ **いろいろな経典(大乘仏典)ができ、他国へも伝わった**

■菩薩とは何か？

観音菩薩、地藏菩薩、弥勒菩薩、文殊菩薩、普賢菩薩、虚空蔵菩薩、日光菩薩、月光菩薩……

密教のはなし
のときにまた
登場する

ボーティ・サットヴァ(サンスクリット語)

菩薩摩訶薩:

智も徳もすべてに傑出し、現在はまだ仏ではないが、かならず
仏になれることが確定している候補者

⇒ **成仏して極楽にいきほいいいのでは？**

自分は仏となることを放棄して、あくまでも「菩薩」のまま、
真理をたずさえてこの世に出現して、一切衆生のために、
慈悲利他行を実践しながら、真理に導こう(救済しよう)
としている。**(大乘菩薩の誕生)**



■土木技術者の倫理もいろいろが…

土木技術者は倫理的に「美しい国土」「豊かな社会」をつくり、
改善し、維持するためにその技術を活用し、品位と名誉を重ん
じ、知徳をもって社会に貢献する[土木技術者の倫理]

とのべるのもいろいろが…

土木技術者は「菩薩行」の精神で仕事を行う

といったほうがまし…？

また、こんな気がするのですが？:

理論的で高度で精緻なモデルを研究する……小乗(研究)

実社会の問題を解決するために研究する……大乘(研究)

■大乘仏教による思想の展開

主な大乘仏典:

「法華経」(南無妙法蓮華経)

「般若経」(摩訶般若波羅蜜多経)

「浄土三部経」(「無量寿経」「観無量寿経」「阿弥陀経」)

「大日経」(大毘盧遮那仏神変加持経)

「金剛頂経」

「般若」(Prajna)…真の智慧:真実を正しく見抜くこと

「大般若経」600巻……「般若心経」(摩訶般若波羅蜜多心経)
276文字

- ・短い経典であるので、広く読まれている
- ・翻訳したのは玄奘(三蔵法師)
- ・現在の宗派でも、浄土系以外ではたいいてい読経する

■般若心経

羯諦、波羅羯諦、波羅僧羯諦。菩提薩埵訶、般若心経。
 苦、真実不虛、故説般若波羅蜜多咒、即説咒曰、羯諦、
 大神咒、是大明咒、是无上咒、是無等等咒、能除一切
 多故、得阿耨多羅三藐三菩提、故知般若波羅蜜多、是
 離一切顛倒夢想、究竟涅槃、三世諸仏、依般若波羅蜜
 依般若波羅蜜多故、心無罣礙、無罣礙故、無有恐怖遠
 盡、無苦集滅道、無智亦無得、以無所得故菩提薩埵、
 無意識界、無眼耳鼻舌身意、無色声香味触法、無眼界乃至
 行識、無眼耳鼻舌身意、無色声香味触法、無眼界乃至
 不生不滅不垢不淨、不增不減、是故空中、無色無受想
 空即是色、受想行識、亦復如是、舍利子、是諸法空相、
 一切苦厄、舍利子、色不異空、空不異色、色即是空、
 觀自在菩薩、行深般若波羅蜜多時、照見五蘊皆空、度

摩訶般若波羅蜜多心経



■行深般若波羅蜜多

觀自在菩薩 行深 般若 波羅蜜多 時

波羅蜜多=波羅蜜(Paramita)

「到彼岸」:向こうの岸(彼岸=Param)に到達(ita)した
 ⇒輪廻を超えた涅槃の境地

わが国では…習俗行事化(聖徳太子
 のころより始まったとされる)

⇒春分・秋分の日(中日)前後3日

迷いの
此岸



悟りの
彼岸

六波羅蜜:
菩薩に課せられた6種類の実践徳目

■観音菩薩

もっともポピュラーな菩薩が「観世音菩薩」
 アヴァローキテシュバラ

観自在菩薩ともいう…いわゆる観音様

観自在…一切衆生の願いを自由自在に救済する
 観世音…衆生の声を直ちに聞いてくれる

詳しくは、「妙法蓮華経」観世音菩薩普門品
 (いわゆる「観音経」)記載

⇒非常に読んでも面白いお経である。

- ・いつでもどこでもやってきてくれる
- ・したがって、神通力(超能力)がある
- ・33種類に変身できる



■観音菩薩の信仰

仏教のその後の展開(特に密教の成立:後述)によって、
 観音菩薩を個別に信仰する「観音信仰」がでてきた。
 (わが国の仏教)

<考察>

- ・観音菩薩…「音を観る」:耳で聞くのではなくて、心で音を観ることができる。
 「サウンドスケープ」の心はこれに近いのでは

- ・京都の三十三間堂、西国三十三箇所めぐりなどは観音菩薩への信仰である

- ・般若心経は、観音菩薩が深遠な智慧の実践をしていたとき、五蘊(存在するものすべて)は、本性は実体のないものであるということを見抜いたことを書いた(最初の記事)

■照見五蘊皆空・度一切苦厄・舍利子

五蘊:「色」「受」「想」「行」「識」

- (1) 色:かたちのあるものすべて、肉体
- (2) 受:感覚作用(眼・耳・鼻・舌・触)
- (3) 想:思うこと、思想(人の心におこる妄想)
- (4) 行:移り変わること、有為消滅の迷い
- (5) 識:判断作用、迷いの根本

人間の肉体も精神も、仮に五つの要素が集まってできているにすぎず、本来何もないのである……

自分というものが確固として存在しているようにみえ、環境も世界も永遠に存続するように見えるが、それは実は錯覚であってすべてのものみな空である

やることなすこと苦と思えば苦、楽とおもえば楽、実体はない

■色不異空・空不異色・色即是空・空即是色

すこしむづかしいが……理解すると画期的！

- ①この世においては物質的現象には実体がない
 - ①実体がないからこそ、物質的現象で(ありえるので)ある
 - ②実体がないといっても、物質的現象を離れてはいない
 - ②実体がないことを離れて、物質的現象であるのではない
- このようにして:
- ③およそ物質的現象というものは、すべて実体がないこと
 - ③およそ実体がないということは、物質的現象である

⇒ 受想行識 亦復如是 舍利子(他のものも、また同様である)

■「空」と「無」は異なる

しばらくご覧ください

■「空」と「無」は異なる

これもしばらくご覧ください

■般若心經

揭諦、波羅揭諦、波羅僧揭諦、菩提薩婆訶、般若心經

摩訶般若波羅蜜多心經

■中観
十一ナ
般若を
それ
根拠と
「行く
「去る
行く
どう
行く
行く
(第9

般若を思想体系として組織した。…「中論」



二つの行くがあるならば
二つの「行くもの」存在する結果になる
なぜなら、「行くもの」なしに
「行く」ことはありえないからである
(第6偈)

■補足説明
言語の
しかし、
ためて

田中は
田中は
田中は
田中は
田中は

田中は
奥嶋は
バスが
ネコが
小泉さ

「田中」という不変の存在(実体)があるようにおもうが…よく考えると、そのような(抽象的な)田中は存在しない。「いずれかの状態の田中」しか存在しない。

「行く」という普遍的な動作(実体)があるようにおもいが…
よく考えると、そのような(抽象的な)動作は存在しない。
「何ものかが行く」ということしか存在しない!

■空の性

こと
恒常な
われ
ばなら
他のも

しか
の名つ
中道で
したと
空を理
別々に
(参考

⇒「空

■空の性

こと
恒常な
われ
ばなら
他のも

しか
の名つ
中道で
したと
空を理
別々に
(参考

⇒「空

⇒「空」の思想は、後の「禪の思想」の基本的概念となっている

■今回はなしができなかったこと

大乘仏教の体系では、「中観」(空の思想)につづく「唯識」思想が重要である。

「唯識」:あらゆる存在はただ「識」、すなわち心にすぎないとする見解。「空」の思想を受けつぎながら、しかも少なくとも「識」は存在するという立場に立って、自己の心のありかたをヨーガの実践を通して悟りに到達しようとする教え。

- ・ヨーガの行における無意識の状態は「心理学」と関係する
- ・唯識学の八識(とくに、摩那識、阿頼耶識)は精神分析学における深層心理の問題と関係する
- ユング:個人的無意識⇒摩那識、普遍的無意識⇒阿頼耶識にほぼ対応する

⇒興味あるひとは勉強してみてください



■今回の参考文献

1. 鎌田茂雄: NHKこころの時代 いのちの探求 大乘仏典に学ぶ(上)、日本放送出版協会、1999.
2. 高神覚昇: 般若心教講義、角川文庫、1952.
3. 上山春平・梶山雄一: 佛教の思想、中公新書、1974.
4. 定方晟: 空と無我 仏教の言語観、講談社現代新書、1990.
5. 中村・福永・田村・今野編: 岩波仏教辞典、岩波書店、1989.
6. 鎌田茂雄: 般若心経講話、講談社現代新書、1986 .
7. 上山春平・梶山雄一: : 仏教の思想3 空の論理<中観>、角川書店、1969.
8. 公方俊良: 般若心経90の知恵、知的行き方文庫、三笠書房、1985.